

発行日：平成24年2月15日（毎月1回WEB発行）

東日本大震災が発生してから間もなく1年を迎えようとしています。福島の今の暮らしをご覧ください。なお、本紙の英語版・中国語版・韓国語版・ポルトガル語版・タガログ語版・フランス語版は、当協会HPからダウンロードできます。

【(財)自治体国際化協会助成事業】

## 福島の風物



春節の集い  
(福島市 2012.1.22 撮影)

福島市や伊達市に暮らしている中国出身の方々と市民とが一緒になって、中国のお正月『春節』を祝いました。水餃子を食べたり、演劇を観たりして楽しいひとときを過ごしました。



スノーボード  
(猪苗代町 2012.2.5撮影)

県内には約20のスキー場があります。県内外から多くの若者や親子連れが訪れ、豊富なバリエーションのコースと良質な粉雪を、スノーボードやスキーなどで思う存分楽しんでいます。



信夫三山暁まいり  
(福島市 2012.2.10 撮影)

五穀豊穡と家内安全を願い、信夫山の羽黒神社に大わらじを奉納するもので、約300年前に始まったと言われています。今年も日本一の大わらじをたくさんの人々が担いで神社を目指しました。

## 福島からの声

### 目黒茜さん (いわき市 女性)

私は、福島高専3年生です。震災後は、放射線の影響を小さくするため、各教室にエアコンが設置されました。一方で、何人かのクラスメートや先生方が学校を去っていき、とても寂しく思いました。私はこの震災を機に、自分自身の進路や人生を真剣に考えるようになりました。それまでは毎日つまらなくてもどうでもいいと思っていましたが、この時間を楽しみたい、一生懸命やりたいと思うようになりました。私自身も含めて今回の震災で、人とのつながりを大切にしようと思う人が増えたような気がします。何か新しい社会が始まる予感みたいなものを感じています。

### 佐藤潤さん (福島市 男性)

今、福島大学の2年生です。震災後は、春休みということもあり実家のある埼玉県に一時避難していて、5月の新学期スタートに合わせて戻ってきました。震災を機に、決断して行動に移すことが早くなったと思います。以前はいろいろ考えてしまいなかなか先に進むことができなかったのですが、今はとりあえずやってみようという気持ちのほうが強くなった気がします。また、いままで考えたこともなかったのですが、福島のために何かしたいと思うようにもなりました。今は全国の大学の人たちや地元企業の人たちと協力して、震災復興を願って郡山市から福島市までのタスキリレーのイベントを企画しているところです。

### ガラール アハマドさん (福島市 エジプト出身男性)

震災時は、エジプトにいました。先に福島に帰っていた妻にすぐに戻るように言ったのですが、彼女は福島のために仕事をしていたのでそれを尊重しました。4月から福島市で妻と暮らしています。エジプトでは原発事故の事しか報道していなかったのが悪い部分しか知りませんでした。今は趣味の写真を通して、県内の素晴らしい風景をたくさんカメラに収め、世界中の人に知ってもらうためにそれらの写真をネットで公開しています。先日、初めて雪を見ました。白い花びらか何か降ってきたと思いました。とても綺麗で感動しました。この雪の写真も公開しています。これらの写真を見て、多くの人が福島を訪れてほしいと思います。

<http://bit.ly/A9e3jX>

### 永田リセさん (いわき市 トンガ出身女性)

震災後1か月間は、近所の一人暮らしのお年寄りの方の面倒をみたり、他県のトンガ人に協力してもらって避難所で炊き出しをしたりと毎日忙しくしていました。単身赴任でトンガにいる夫からはすぐに避難するよう何度も連絡が入りましたが、お世話になっている近所の人、英会話サークルの生徒さんたち、その他たくさんの友人の顔が思い浮かび、みなさんを残し私だけがトンガに避難するということは到底考えられませんでした。5月からは英会話サークルも再開し、今はすっかり震災前の生活に戻っています。私は福島で暮らして35年になります。福島は私の故郷です。楽しいことを考えて、前向きに過ごしていこうと思っています。